

co-op

三重の生協の  
今を伝える

# みえの虹



No.119

2018年10月

三重県生活協同組合連合会

〒514-0009 三重県津市羽所町379  
TEL.059-228-9913 FAX.059-228-9915

## コープくらしのフェスタ 小さなつながり♥大きな笑顔 開催

11月18日(日) 開催時間:10:30~15:30

場 所: 三重県教育文化会館6階多目的ホール  
(津市桜橋2-142 TEL 059-228-2077)

三重県生活協同組合連合会では、年に一度、組合員や地域のみなさまとともに暮らしや社会に関わる取り組みをおこなっています。今年度は生活協同組合をはじめ、他組織等にもご協力いただき、地域や暮らしに関わることを知って、私たちの暮らしが豊かになることをめざして、コープくらしのフェスタ“小さなつながり♥大きな笑顔”を開催いたします。ぜひ皆様お誘いあわせの上、ご来場ください。

テ ー マ  
コンセプト

地域のちからと人のつながり

一人ひとりが地域のちからです。そのちからのつながりに生協は関わり、組合員と地域のみなさんの身近な存在になっていくことをめざします。

### ステージ企画

ステージ1 お笑いステージ  
三重県住みます芸人 カツラギ

11:00~



津市出身の双子のコンビ「石井肇さん(兄)、石井彰さん(弟)」2014年1月13日結成。三重県3代目住みます芸人を務め、JA津安芸の農業PR隊長も務めています。

ステージ2 ときめきトーク  
白山高校野球部 川本牧子部長

14:00~



この夏甲子園出場を果たした白山高校には、部員と苦楽を共にした女性である川本部長の存在がありました。これまでの感動やエピソードなど、会場の皆さんと共にお話しましょう。

(裏面に続きます)

一人は万人のために 万人は一人のために

生活協同組合  
コープみえ

みえ医療福祉  
生活協同組合

三重県学校  
生活協同組合

三重大学  
生活協同組合

三重短期大学  
生活協同組合

三重県立看護大学  
生活協同組合

三重県労働者共済  
生活協同組合



## いろいろなブースコーナー

スタンプラリー  
(先着300名様)

コープ商品のご紹介・試食等  
健康に関わる診断、体験、健康チェックコーナー  
地域と連携した商品づくり開発商品のご紹介  
福祉事業所によるスギナ茶などの販売  
防災・減災コーナー、交通事故を減らすための安全運転診断  
地元の農産物販売  
ユニセフクイズ、折り紙コーナー  
海産乾物等の販売  
平和クイズ、食と健康クイズ



生活協同組合コープみえ  
みえ医療福祉生活協同組合  
三重大学生協同組合  
三重県学校生活協同組合  
三重県労働者共済生活協同組合  
三重県農業協同組合(JA津安芸)  
三重県漁業協同組合連合会  
三重県ユニセフ協会  
消費者市民ネットワークみえ  
などが参加!

お問い合わせは コープくらしのフェスタ実行委員会(三重県生活協同組合連合会)まで

## お知らせ

### 三重大学で協同組合論の講義が始まりました

開講3年目となる今年度も人文学部青木准教授のもと、10月1日から協同組合論の講義が始まりました。

社会と地域と人とのつながりをはじめとした協同組合の役割や実践を知ってもらい、現代社会の諸問題を考える中で、協同の視点を考察していきます。

それぞれの協同組合からゲストスピーカーとしてご登壇いただきます。

来年1月21日(月)には日本生活協同組合連合会の本田英一会長の講義を予定しています。公開授業と致しますので、一般聴講していただけます。受講希望の方は三重県生活協同組合連合会までお知らせください。



## お知らせ

### 三重県議会との懇談・県政要望の機会をいただきます

三重県生活協同組合連合会は、地域生協・医療福祉生協・学校生協・大学生協・共済生協の7生協が購買・医療・福祉・共済などの事業や、組合員による地域に根差した活動を通じて、県民生活のさまざまな課題に取り組んでいます。9~11月にかけて、三重県政に係る意見交換をさせていただく機会をいただきます(2018年度は、正副議長・新政みえ・自由民主党県議団を予定)。

三重県民が健康で豊かな生活を実現し、社会と地域の活性が向上していくことをめざす一方で、“誰も取り残されない”ために社会のセーフティネットの充実を要望します。



▲9月7日:自由民主党県議団との懇談

1. 県民一人ひとりが生きる場・暮らす場でもある“働く”環境、とりわけ、女性の働く環境整備と雇用をさらに推進し、貧困問題の解決やくらしの向上・しあわせ度の向上に取り組んでください。
2. 全国各地で災害被害が発生し、三重県においても災害での被害が続いています。  
被害を最小限にしておくための行政の対応力を検証していただくとともに、諸団体・地域住民と一体となった発災時訓練を繰り返し、災害に備えるの実効性を高めていくことを要望します。  
また、この間の災害被害にあっては、くらしの基盤である住宅の損壊が多発していることから、「被災者生活再建支援制度」の全体的な支援金額の引き上げとともに、三重県における災害見舞金制度の金額引き上げを要望します。
3. 引き続き、以下の実現にむけて、取り組まれることを要望いたします。

- 1) 国連で「核兵器禁止条約」が賛成多数で採択されましたが、日本は不参加であり、批准しない見通しです。人道的見地から核兵器をなくす本条約締結にむけて、三重県議会として呼びかけを継続してください。
- 2) 子ども医療費の窓口無料化の拡大、ひとり親家庭・障がい者の医療費窓口無料化を三重県行政に継続して求めてください。
- 3) 社会保障制度改革は、県民のくらしと生活者の視点からすすめるよう、国への提言と県政の主導をしてください。誰もが安心して利用できる介護保険制度、適正な国民健康保険料への検討を求めます。
- 4) 三重県および市町の消費者問題に対応する行政の充実をはかってください。

## 消費者市民ネットワークみえ

7月14日消費者ネットワークみえが設立されました。その事務局を三重県生活協同組合連合会が担っています。設立総会のアンケートより、三重県の市町の消費者行政の実態はどうなっているのかという質問が複数あり、8月に消費者行政アンケートを実施しました。31行政（県・鈴鹿亀山広域含む）のうち、24行政から提出をしていただきました。集約表は、全国消団連地方消費者行政プロジェクトに送信し、全国の考察にも活かされます。

また11月18日（日）に開催される“コープくらしのフェスタ”にネットワークから専門家に参加いただき、消費者くらしの相談ブースを出展します。お困り事のある方、こんな事聞きたいなど、お気軽にご相談ください。

## ご一緒に参加しませんか？

団体会員 8団体  
 個人会員 49名(2018年10月現在)  
 会費(1年間) 団体会員 1口 5,000円  
 個人会員 1口 1,000円

消費者問題についての講師の派遣をします。

消費者問題について日頃から考えていること、わたしだったらこんな事ができる、こんな事をしたいという方と一緒に参加しませんか？  
 わたしたちが将来にわたって、地域の中で安心して住み続けられるために、一緒に話し合い、住みよいまちづくりをすすめていきましょう。

お問い合わせ・入会希望の方・講師派遣依頼の方は…

消費者市民ネットワークみえ 三重県津市羽所町379番地  
 (電話) 059-228-9913 (FAX) 059-228-9915

## 支援活動

## 3.11を忘れない

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします。

第61回 2018年9月5日

## 食べていただくことが石巻の水産復興につながる

石巻の水産業者たちが、震災後、石巻市水産復興会議という組織を立ち上げ、一丸となって、真っ先に行なったのは冷蔵庫にあった製品の廃棄処理でした。各社から人が出て「今日はこの会社の冷蔵庫、明日はこの会社の冷蔵庫」と振り分けし、3カ月かけて処理しました。

「海があり、船があれば漁はできる。仮設の魚市場が建てば水揚げができる。しかし加工場がなければ出荷はできない。そこで加工場の冷蔵庫に残っていた製品を全部捨て、受け入れ環境を整えることから始めたんです」。渡波水産加工業協同組合の木村安之専務理事は、当時をそう振り返ります。

また渡波水産加工業協同組合は、国の補助を受けてすぐに冷凍冷蔵施設と製氷施設を復旧させ、組合員（水産加工業者）が氷の手当てや冷凍冷蔵庫の保管を心配することなく事業再開に打ち込めるようにしました。

一方で壁にも突き当たりました。「消費者の方々に宮城の水産物をた

くさん食べてもらわなければならないのに、原発事故による風評被害が起きて不安だった」と話します。さらに組合員の間では施設整備に伴う二重ローン問題も浮上し、不安は増大しました。

しかし震災から3年後に組合の青年部が活動を再開。交流する中で様々な意見が出てくるようになりました。木村さんはそこに希望を見ます。「水産加工は練り製品や塩蔵品など業種が多様で、他の工場の実情を知らない。だが青年部の活動で工場を行き来すれば作業内容なども自然とオープンになる。それが互いに刺激になる。議論が生まれ、行動に移していくこともできるようになった」。

同組合は食育などのPR活動に取り組む一方で、消費者の声を聴きに行くことを今後の課題にしています。

「消費者の方々が何を求めているかを知り、さらに交流を通して我々の製品の良さを伝えていきたい」と木村さん。「消費者の方々に石巻の水産加工品をたくさん食べていた

だくことが復興につながる。PR活動と交流に取り組み、組合員の経営に貢献していきます」。

同組合の組合員は現在36社。その思いを反映した運営と新たな試みとのバランスを取りながら、復興の道をたどっています。



▲木村安之専務理事（右）と菅原正浩専事。「時代の変化に対応していくには消費者の方々との交流が大切で、それが個々の組合員の経営維持につながる」と話します。



▲凍結室をはじめ立体自動冷蔵施設、自動製氷施設など最新の設備が整っています

三重県生活協同組合連合会って  
どんなことしてるの？

安心して地域の中でくらししていくために、三重県にある大学生協、学校生協、医療福祉生協、地域生協、共済生協があつまって、食や健康、平和、防災や消費者被害等についてなにができるかを考えています。そして、三重県にくらす人たちにお知らせしたり一緒に活動したりしています。

三重県生活協同組合連合会 上野会長理事 (連載)

「連れもっていこうに」

三重大学人文学部で特殊講義「協同組合論」が開講された。この講義の運営主体は、三重県生活協同組合(いわゆる生協)連合会である。この連合会に対し、農協や漁協もメンバーである三重県協同組合連絡協議会(MJC)が協力支援体制を組んでいる。これは、県下初めての試みである。今後、日本社会の中で異業種間の連携が進んでいく根拠ともなる証左である。またこの特殊講義は、これからの働き方改革の議論に一石を投じることにもなる。



こうして協同組合とは、共通の経済的、社会的、文化的な要求とそれぞれの想いに基づき、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である、と定義される。講義では、協同組合とかかわりのあるテーマごとに、例えば、大学、消費者、金融、医療・福祉、中小企業、漁業、食と農、労働福祉、働く人、市民、生協が受講生に理解されるように散りばめられている。テーマごとに講師を変えることにより鮮度を高め、それぞれ特色のある話題が提供される、と思う。

ともあれ協同組合論という講義は、協同組合に下支えされた数多い具体的諸問題を引き出し、このテーマを共有することから始まる。

志摩弁にこういう言葉がある。「(皆さん)連れもっていこうに」。

理事会 だより

2018年6月26日(火)  
16:00～16:30  
コープみえ本部3階 役員会議室

2018年度第1回

協議決定事項

- ・ 役付理事互選の件
- ・ 代表理事選定の件
- ・ 2018年役員(会長理事)報酬について

主な報告事項

- ・ 三重県生協連／2018年専門委員会等の委員選出について
- ・ 三重県から要請／三重県協同農業普及事業外部評価委員への就任について
- ・ 5月度決算 および 4-5月累計報告
- ・ みえ医療福祉生協／2018年度健康づくりチャレンジについて
- ・ 2018年ハート平和行進／キックオフ学習会・平和行進報告
- ・ 日本生協連2018ピースアクションinヒロシマへ県連からの派遣について

2018年8月17日(金)  
14:55～16:30  
コープみえ本部3階 役員会議室

2018年度第2回

協議決定事項

- ・ 2018年度 三重大学への寄付について
- ・ 平成30年7月豪雨(西日本豪雨) 支援募金について

協議事項

- ・ 2018年役職員研修(視察)について
- ・ 2018年度三重県議会との懇談について
- ・ 2018年度コープくらしのフェスタについて

主な報告事項

- ・ 6-7月度および累計(4-7月)決算報告
- ・ 第41回(2018年)東海北陸地区生協同会議(三重県開催)について
- ・ 消費者市民ネットワークみえ設立総会報告と今後の活動について
- ・ 三重県協同組合連絡協議会(MJC)企画について
- ・ コープみえ「夏休み福島の子どもたちを三重にお招きする保養企画」への参加報告
- ・ 消費生活協同組合(連合会)等に対する厚生労働大臣表彰について